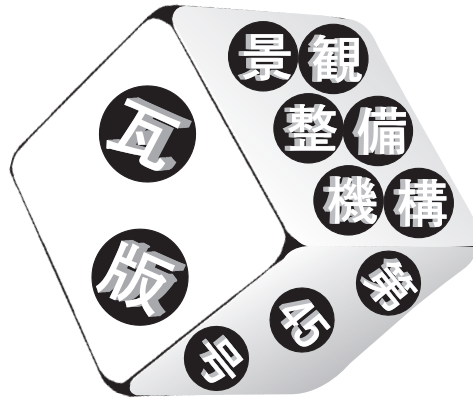




階段手摺の兎と亀  
(旧豊郷小学校)



唐招提寺：修理の終わった金堂

### ■ 失われていく近代遺産

今年、袋井駅前の天理教山名大教会旧神殿（明治37年築・木造）の実測調査を手伝わせて頂く機会がありました。荘厳な内部空間、豪壮でシンプルな架構がなされていましたが、安全面、利用方法、莫大な改修費用等の諸事情により、惜しまれつつ取り壊しとなりました。島田の「みのる座」も色々な状況の背景を理由に取り壊される予定です。

関係者の方々は愛着があり、大切にしてきたものを壊すことを決めるには、色々と悩み、専門家の助言や知識を集め、考えに考えた上で現実的に、今一番良い方法を決断したのだと思います。

### ■ 建物の価値、魅力

そんな中、今年5月に滋賀～奈良を訪れました。豊郷町にある旧豊郷小学校(ウィリアム・メレル・ヴォーリズ設計)は耐震・改修工事後、図書館、子育て支援センター等に利用されています。又、私達のように建物を見学に来る人達もいれば、アニメの舞台としても誘致し、多くのアニメファンの若者達も見学(彼等は聖地巡礼と呼んでいる)に来ていました。

町長をリコールしてまでも残した学校..。再び多くの人達が訪れ利用されていて、町の人達のこの建物への愛着を強く感じます。

近江八幡ではヴォーリズ設計の住宅を、今も大切に住み続けている人達があります。当時、彼が設計した建物は、年を重ねてもなお魅力的で使いやすいから大事にされているのでしょう。

市内では、空き家になった古い長屋風住宅を地元の大学生達が自力で町の休憩所&カフェに改修し運営して、町全体で今の景観を残そうと頑張っている姿を見ることができました。

9月12日に金沢工業大学で行われた、金沢シンポジウム基調講演「古代を解く：唐招提寺金堂の保存修理を終えて」をネットで観ることが出来ます。

「昔の大工は1200年もつ建物を造ったのではない。1200年もたせる価値のある建物を造ったのである」(坂本功著・木造建築を見直す)が言い当てています。

### ■ 何故壊れなかったかの検証は？

木造建築に対する日本の近代史が歪んでいる為か、現在まで「数百年安定し存在し続けている建物」はどれも建築基準法に適合しない既存不適格建築物か文化財建築物(法3条により適用除外)です。

2000年の法改正で限界耐力計算を使って、石端建て伝統構法で住宅を建てられるようになったのも東の間、07年の建築基準法の改正以降、適合性判定が必要となり実質的に建てられません。

そんな中、国の事業で実務者が実践的に使える設計法の作成を目指し活動していますが課題山積のようです。

古来の日本の建物づくりの技術は、多雨多湿、頻発する地震、毎年襲う台風など、日本の環境の中で生まれ、培われた技術である筈です。其れを受け継いだ実務者達の認める設計法が確立できれば、新築はもちろん「何故壊れなかったかの検証」や補強設計が行なわれ、再生、新たな価値や使い方を求めることも可能だと考えられます。

ケンプラッツに、例の倒壊実験(長期優良住宅/E-ディフェンス)についての詳細が載っています。

将来、伝統構法の建物が当たり前に建てられる環境になれば、在来工法の住宅設計は構造計算が必要、石端建て伝統構法の其れは4号特例を適用...。そんな時代が来るかもしれません??.....。

H21「地域文化財専門家」研修生 山田 法人



旧豊郷小学校



痛車(アニメのデコカー)



近江八幡の町並み